

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立福生高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成
主任教諭（教務主任兼務）＝事務局長、主幹教諭1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、学年主任計7名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長1名、近隣中学校長1名、地域代表2名、福生市教育委員会1名、特別養護老人ホーム施設長1名、若者サポートセンター1名 計7名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年5月19日（金）内部委員7名、協議委員5名出席
令和3年度学校運営連絡協議会実施報告
学校経営計画と組織目標、本校の現状と課題等書面による報告
 - 第2回 令和5年10月20日（金）内部委員7名、協議委員5名出席
学校評価アンケート内容の検討、これまでの教育活動に関する報告と協議
協議委員から教育活動に対する意見
 - 第3回 令和5年2月2日（金）内部委員7名、協議委員7名出席
学校評価アンケートの結果報告、これまでの教育活動に関する取組の結果等書面による報告
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年10月20日（金）本校校長会議室 内部委員1名、評価委員2名
内容 学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和6年2月2日（金）本校校長会議室 内部委員1名、評価委員2名
内容 今年度の学校評価結果等書面による報告

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校運営」「学習活動」「生活指導」「進路指導」「特別活動」「健康・安全」などの観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模（）数字は昨年度

11月	全校生徒	対象：53人	回収：49人	回収率：92%（84%）
11月	保護者全員	対象：53人	回収：38人	回収率：72%（60%）
12月	地域・住民	対象：100人	回収：36人	回収率：36%（71%）
11月	教職員	対象：8人	回収：8人	回収率：100%（100%）

（）内数値は昨年度
- (3) 主な評価項目
ア 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、その他（読書活動、体罰指導、ライフ・ワークバランス）
- (4) 評価結果の概要
令和3年度から令和5年度の経年変化から学校評価の概要を検討し、評価結果の分

析・考察を行った。

ア 生徒の評価

① 全般

福生高校に入学しての満足度は昨年度の 86% 台から 92% に上昇した。高校生活が将来役立つと考えている生徒も昨年度 82% から 90% に上昇した。

② 学習

「教科書内容の適性や指導の工夫」の肯定的評価は昨年度 73% から 90% に上昇した。設問 4 の「先生の教え方や教材の工夫」も 78% から 94% に上昇した。また、設問 5 の「授業に参加して、学習への興味・関心・意欲を持つようになった」は 73% から 71% にわずかに減少した。

③ 生活指導・進路指導

「暴力やいじめの防止等、安心して学校生活を送れる生活指導が行われている」の設問は昨年の 82% から 94% に増加した。おおむね落ちついた学校生活と言えるが、生徒間のトラブルで指導を要する場面は今年度も発生しているため、引き続き注意をしながら生徒を見守る必要がある。「基本的生活習慣、社会性を身に付ける指導」を肯定的に受け止めている生徒の割合は 83% から 98% に増加した、進路指導の充実に関する生徒の肯定的評価も昨年度 76% から 94% に増加した。

④ 特別活動・部活動

学校行事についてはコロナ禍から行事が復活したことで 73% から 94% に増加した。部活動からの設問に対し「積極的に参加している」と回答している生徒は昨年の 50% から 69% に増加した。

⑤ 健康・安全

健康で安全な社会生活を送るための取組や健康管理への取組に対する肯定的評価は昨年の 82% から 96% に増加した。生徒の悩み相談への対応も昨年の 78% から 94% に増加した。

⑥ 施設・設備、読書活動

施設に対する生徒の肯定的評価は 78% でわずかに減少した。読書活動についての評価が約 73% で減少したが、2 年前の数値に戻った。

⑦ 体罰指導

体罰や暴言をなくす取組を評価していた割合がここ 3 年間では 80% 台を維持している。

イ 保護者の評価

回収率は、昨年度の 60% から 71% に増加した。昨年度以上に各担任に生徒への声掛けをしてもらった結果である。ここ 3 年間では最も良い数字である。

主に学習面に関しての設問では、昨年度と比較してわずかに下降傾向のものもあるが、いずれの質問においても肯定的回答について 90% 台を維持しているため、全体的にはおおむね保護者の信頼を得られていると考える。

生活指導面では、安全・安心の設問において昨年の 76% から 95% に回復しており、生徒の肯定的回答もある 94% であるので、信頼を得られていると考える。進路相談や進路講演会の設問は今年度 95% であり、ほぼ昨年並みである。

学校行事については、肯定的回答が昨年の 85% から 95% に増加した。部活動の積極的参加の設問についても昨年度 47% から 68% に増加した。積極的に取組んでいる生徒もおり、全国大会で入賞などの実績もあるが、より効果的な PR と、生徒の自己肯定感の育成が課題である。

健康で安全に社会生活を送るための取組み、生徒の悩み相談などの対応については昨年度から大きな変化はなく、施設・設備面についても若干減少したが、肯定的回答が 87% である。

読書活動の推進においても 61% から 76% と 2 年前の回答率並みに回復した。

ウ 教職員の評価

教員が 100% 肯定的評価をしている項目の数は昨年の 15 項目中 10 項目から 9 項目に下がった。

「福生高校に入って良かった」という項目が昨年の 88% から 100% に回復した。

学習面について、設問 4 の「基礎・基本の定着のために、教え方や教材を工夫して

いる」について、教員の肯定的評価 100%に対して、生徒の評価が昨年の 78%から 94%に増加し、生徒と教員の差がなくなってきた。設問 5「授業に参加して、学習への興味・関心・意欲を持つようになった」教員の肯定的回答が 100%から 88%になり、生徒の肯定的回答もわずかに減少傾向である。生活指導関係では、設問 7「基本的な生活習慣や社会性を身につける指導が行われている」で肯定的回答が 100%から 75%に減少したほか、他の項目でも若干の減少傾向が見られる。設問 8 の進路指導の充実度合いが昨年 75%から 100%に回復した。

学校の施設・設備に関する評価は昨年の 65%から 75%に回復した。

エ 地域住民の評価

今年度地域住民に対するアンケートの実施方法をこれまでの紙を配布して回収し、集計を取る方式から、インターネットによる方式に変えたためか、回答率が昨年の 71%から 36%に減少した。回答率を回復させるのが課題である。

文化祭の質問が復活し、肯定的回答が 50%であった。その他特筆すべき点として、設問 5「本校の窓口や電話での対応は良いと思う」、設問 6「地域社会の定時制への要望や苦情を真摯に受け止め、改善をしていると思う」、設問 7「学校は働き方改革に取り組んでいると思う」について肯定的回答が低い。地域に対する本校定時制課程の理解促進が課題である。

オ ライフ・ワークバランスについての評価

設問 17「国計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、ライフ・ワーク・バランスの実現を図っている」に対して、昨年の 75%から 50%に減少した。設問 18 の「各種会議時間の上限と在校時間の縮減」について、昨年の 88%から 75%に減少した。教員の多忙感は解消されていない。

5 評価結果の分析・考察

(1) 学校全般

本校に入学して満足していると考えている生徒・保護者・教員の割合は高い水準を維持しており、生徒や保護者が学校に高い信頼を寄せていると言ってよい。

(2) 学習

本校教員が生徒の学習指導について生徒の学力向上のための努力をしているという評価が生徒や保護者からは得られており、それが生徒の学習への興味・関心・意欲の高まりに結びつくよう指導していくことが今後の課題である。

(3) 生活指導

安全・安心のための生活指導に関して、生徒と保護者は本校の取組について肯定的である。教員がそれをしっかりと感じながら指導を継続していくことが課題である。

(4) 進路指導

生徒の肯定的回答の数値は上昇しており、生徒・保護者ともに信頼を得ていると考えられる。今後も指導内容の充実に向けて、引き続き努力する。

(5) 行事・部活動

今年度は修学旅行と観月祭がコロナ禍明けで復活したことから生徒も保護者も数値が改善した。

部活動に対する評価は、55%の高い加入率や自転車競技部の全国大会への出場等成果が出ており、アンケートの回答状況も生徒・保護者ともに昨年度より上昇に転じた。昨年度に引き続いて HP を利用して積極的に行事や部活動の PR 活動を行っており、今後は生徒の自己肯定感の育成に努め、部活動についてもさらに自信が持てるような指導の工夫が必要である。

(6) 健康・安全

全体的には高い水準を維持していると言ってよく、これからも、今までの取り組みの維持を心がけたい。

(7) ライフ・ワークバランス

ライフワークバランスの必要性や取組の大切さが認識され、教員側で業務の効率化の努力を行っているが、日々目まぐるしく変わる教育改革の波や、コロナ禍明けの業務の増加、また個別の生徒が持つ課題への対応の難しさから、教員の多忙感を払拭で

きるものとはなっていない。

6 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

本校が取り組んでいる「入って良かったと思える学校」を目指して、落ち着いた学習環境を作りながら、基礎学力の向上、生徒一人一人の進路実現、人間性を磨く教育を組織的に推進してきたことについて、生徒・保護者の理解が進んできている。また、地域連携により、地域の防災訓練に参加するなど、共通の取組を持つことができている。今後もより良い定時制の教育活動を推進し、また、地域と可能な限りの連携を深めていきたい。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

夜間定時制という厳しい条件ではあるが、学校の取り組みに対する成果は様々な形で実を結んでおり、これからも様々な方策を継続して実施することで、さらにより良い学校にしていく。コロナ禍明けとなり、「やさしい日本語講座」のような地域に向けた取組をしていくことで、より開かれた学校としての姿を示したい。

7 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

各分野の指導において組織的な対応をさらに推進する。

(2) 学習指導

授業規律の向上を推進し、授業改善をこれまで通り進めるとともに、オンライン授業実施時の課題整理、対話的・主体的で深い学びを実現する授業と観点別学習の評価等新学習指導要領に基づいた教育活動を実施する。

(3) 特別活動

部活動の加入率の維持や活動の活性化と継続性を図る。その他、地域や都民に対して部活動の実績の効果的なPR活動に継続して努めるとともに、生徒の自己肯定感を育み、活動に自信が持てるよう指導を行う。

(4) 生活指導

日々の努力により落ち着いた学習環境を実現できており、授業規律の維持とさらなる向上を目指す。課題のある生徒の対応には、子ども家庭支援センターや児童相談所との連携を緊密に行い課題の解決を図る。普段の取組として、人権意識の向上、および通学時における交通マナーの向上等一層の努力をする。

(5) 進路指導

これまで通り4年間を見通した進路指導を実施し、低学年での進路意識の向上を図る。面談週間を活用して、個別指導を充実させる。必要に応じて若者サポートセンター等外部団体との連携を進め、生徒の自立を促す取組を行う。また、学年や他分掌にも協力を得られる体制を整える。

(6) 健康・安全

これまで通りセーフティ教室や薬物乱用防止教室を実施し、健康・安全を推進する。必要に応じてコミュニケーションアシスト講座への参加や通級の導入等学校生活への適応に課題のある生徒への取組を行う。また、スクールカウンセラー等外部機関と組織的な連携を強化する。

(7) ライフ・ワークバランス

今後も計画的に業務のスリム化を行い、ライフ・ワークバランスの実現を図る。また、保護者や地域の方にも本校の取組を伝える努力をする。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数 ()内は昨年の数値

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
6 (7)	1 (0)	0 (1)	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

(1) 実績

ア 職員会議	0回	延0人
イ 企画調整会議	0回	延0人

(2) 成果

職員会議や企画調整会議は決められた曜日・時間であるため、参加できる協議委員は
いなかった。今後、さらに参加を呼びかける。

8 その他

・地域へのアンケートについては、実施の工夫や説明、実施方法の見直しを含めた検討が必要
である。